大津市社会福祉審議会 高齢者福祉専門分科会 議事録

1. 会議の名称 令和7年度第2回大津市社会福祉審議会高齢者福祉専門分科会
2. 開催日時 令和7年8月18日（月）午後1時53分から午後2時45分まで
3. 場 所 新館2階 災害対策本部室
4. 出席者 7名（10名中）
川橋委員、安井委員、奥村委員、片岡委員、酒井委員、仲野委員、米原委員
5. 欠席者 3名（10名中）
川端委員、浜本委員、村田委員
6. 傍聴者 なし
7. 事務局 （11名）
岩村介護・福祉施設課長、西本長寿福祉課長、白子長寿福祉課課長補佐、藤田長寿福祉課課長補佐、川村長寿福祉課係長、石川長寿福祉課係長、新谷認知症施策推進室主査、北介護保険課長、野田介護保険課課長補佐、龍池地域医療政策課長、友岡地域医療政策課主査
8. 議 事 (1) 本市の認知症施策について
(2) その他報告事項

9. 会議結果（要旨）

(1) 本市の認知症施策について

- ・資料1「本市の認知症施策について」について事務局より説明

(2) その他報告事項

- ・第10期高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定に向けた取り組みについて事務局より説明

（質疑応答）

<委員>

民生委員の任期が3年であり、今年の12月に改選される。概ね3分の1程度が新任となるのではないかと思っている。改選後に民生委員を対象とした認知症サポーター養成講座を開催していただきたいと思う。

民生委員は、認知症、寝たきりなど見守りが必要な人をネットワーク台帳に登録している。それを大津市社会福祉協議会で一括して管理している。そういったものも使いながら、行方不明者発見ダイヤル、損害賠償保険について民生委員を通じてご家庭に案内するなどの連携をしていただければと思う。

<委員>

多様な主体との連携というところで、認知症の初期段階のときに、認知症初期支援チームのアプローチがあり、支援・対応をしていただけるのはありがたいと思っている。その後、認知症の症状が進んでいく中で、暴力的になられてしまいケアマネジャーが苦慮するケースがある。デイサービスや泊りの職員に対しての暴力行為だけで止まればまだ良かったが、住みなれた地域の方へ暴力が振るわれ、その時点で警察も動き始めた。

ケアマネジャーが、包括も含めたケース会議の開催依頼をかけたが、なかなかスムーズに進まず、ご近所への暴力が発生した後に、警察も含めてケア会議をする流れになった。

ケアマネジャーが、気づいた点についてどのように対処・支援していくのが良いかを話し合える機会を早めにいただけると良いと思う。また、認知症の初期段階以外にも継続的に症状に対してどう適切な対応をしていくのが良いのかななどの情報提供をいただける場を設けていただくことで、より良い支援につながっていくと感じるので、そのような検討をしていただきたいと思う。

<委員>

2ページの認知症相談窓口協力事業所が具体的にどういうものか教えて欲しい。

8ページの3つ目の認知症当事者の活躍の場の創出は、説明のあった講演会等での登壇以外でどのようなものをイメージしているのか。

9ページの認知症サポーター養成講座実施時の参加人数を教えて欲しい。

12ページの今後の取り組みについては、いつ頃から実施されるのか教えて欲しい。

<事務局>

協力事業者になりたいとの申請があった事業所に対して、こちらが登録させていただくものである。例えば、市役所内の郵便局に協力事業者になっていただいております、ステッカーを貼って協力事業者であることを周知している。

活躍の場の創出については、講演会などの登壇や、推進会議の委員として参画し市の施策の決定プロセスに関わっていただくことを実施している。また、認知症の方も、働ける方やできることはやりたいと思っておられる方もおられ、行政がどのようにサポートしていくかという課題がある。今年度から来年度にかけては、働きたいと思っていらっしゃる方をどのようにサポートして働いていただけるかというような仕組みづくりを検討していきたいと考えている。そういったことができると、認知機能の低下を抑えることができるのではないかと考えている。

認知症サポーター養成講座の参加者数は、20名程度の方にご参加いただいた。90分のカリキュラムの中で、当事者の話を入れる形で開催したが、アンケート結果からは時間が足りないとの意見もあった。

庁内では、全庁的にアンケート調査を実施し、各部局で認知症の方と関わりがありそうなところを抽出して、庁内の連携会議のメンバーを決めたところである。庁外では、高齢者虐待防止支援推進会議を7月末に開催した。サポーター養成講座に登壇いただいた当事者に委員としてご参加いただき、当事者ならではのご意見をいただいた。

<委員>

認知症サポーター養成講座の当事者の貴重なお話とは具体的にどういったものか。

12 ページの推進体制に社会福祉協議会が記載されていないが、サロンやふれあい給食など実施しており記載していただいても良いのかなと思う。

<事務局>

森田さんが認知症として診断されるまでの経緯や今どういう生活をしているかなどを話していただいた。認知症サポーター養成講座でお話いただいた際に、時間が足りなかったという意見もあり、今回のオレンジリングフォーラムおおつの第二部で講演していただく予定である。

構成団体については、一例として掲載している。ここに記載していない社会福祉協議会をはじめ、シルバー人材センターやコンビニエンスストア等とも連携していければと考えている。

<委員>

5 ページの行方不明高齢者早期発見ダイヤルの利用実績、認知症高齢者等個人賠償責任保険事業が実際に使われたケースはあるのか。

8 ページの行政につながっていない独居の認知症高齢者の早期発見について、介護サービス事業者としては認知症高齢者の症状が悪化してから会うケースが多い。地域でもう少し早期につながっていたらここまでにはならなかったのではと思うことがある。早期発見には地域のネットワークが必要となると思うが、自治会加入率も低下しており、どのように進めるのか。

<事務局>

行方不明高齢者早期発見ダイヤルは昨年度 20 件程度の実績であり、認知症高齢者等個人賠償責任保険事業については活用実績がない。

早期発見については、先ほども話のあったネットワーク台帳の活用や金融機関向けの認知症サポーター養成講座の実施などを通じて、どこに相談したらよいか、どのように相談したらよいかというところも含めてネットワークを構築していきたい。

<委員>

行方不明が発生したという情報はどこに入るのか。

<事務局>

登録している方に送信される。また、民生委員の会長、あんしん長寿相談所のほかに外回りの多いお弁当屋、保険会社などにも配信している。

<事務局>

昨年度も平和堂などで認知症サポーター養成講座を実施してもらいあんしん長寿相談所への連絡が増加した。この先は、金融機関やコンビニエンスストアともつながっていききたいと考えている。

<委員>

2 ページで当事者への支援の図が記載されているが、家族への支援も大切であり、家族の会も相談ダイヤルを持っている。家族の支援を通じて本人にも良い影響が出ると思って取り組んでいるので、周知していただけたらと思う。

若年性認知症の方と関わるケースが増えてきて LINE で相談対応している。すぐに LINE が返せない場合もあるので、リアルタイムに相談対応できるホットダイヤルみたいなものがあると良いなと思う。

3 ページの認知症簡易チェックサイトで認知症の疑いありとされた方には包括支援センターを案内しているとの説明であったが、その後のフォローはしているのか。

<事務局>

個人情報を入力せずに気軽にチェックできるものとしており、後追いはできないものとなっている。

イベント時に脳健康チェックを実施しており、気になる方は相談していただくように促している。

<委員>

4 ページの認知症ケア向上研修に昨年度参加したが良かった。もっと広がると良いと思う。認知症ケア現地相談研修についても、現場を支える側の質が上がれば幅広い人を支えることができるので良い取り組みだと思うが、参加者が少ないのが少し残念である。

8 ページの独居の認知症高齢者については、いずれは成年後見の市長申し立てにも結び付くのかなと思って聞いていた。そういった支援もしっかりと進めて行って欲しいと思う。

(2) その他報告事項

- ・第10期高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定に向けた取り組みについて事務局より説明
質疑なし

10. 閉会